

# 覺勝寺だより

慈光照護のもと、門徒各位におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、覺勝寺護持運営にあたり、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、令和二年度門徒総会は、コロナウイルス感染拡大防止のため、書面議決による総会といたしました。

二月十四日(日)十時より、年番と総代の出席の下、書面表決書を集計いたしました。今回その結果を掲載いたしましたので、ご覧ください。

また、その時にいただきましたご意見につきましても、順次検討していきたいと考えております。令和三年度も引き続き、護持活動にご協力いただきますようお願いいたします。

合掌

## 第一回総代会報告事項

### 一、年間護持活動について

令和三年度の護持運営体制及び行事予定につきましては、町内会の行事予定等が決定次第、門徒の皆様にご配布する予定ですので、今しばらくお待ちください。

### 二、春季彼岸会・永代経法要について

春季彼岸会・永代経法要の勤修につきましては、三月二十日(土・祝)の午後、二部制で行います。法話は、田中住職代務にお願いしました。

## 書面議決結果報告

第一号議案 令和二年度活動報告

賛成八十一票 反対〇票

第二号議案 令和二年度各決算報告

賛成八十一票 反対〇票

第三号議案

覺勝寺所有・管理財産管理要綱(案)  
覺勝寺護持基金特別会計処理規定(案)

賛成七十九票 反対二票

※書面表決書有効数八十一票(無効二票)

## 春季彼岸会・永代経法要

### 一、日時

三月二十日(土・祝)

十三時三十分から

(一班、六班)

十五時から

(七班、十班、他所)

### 一、勤行 一、法話

田中康勝住職代務

※一班から六班の年番の方は、法要準備のため、十時に集合をお願いします。七班から十班の年番の方は、後始末のお手伝いをお願いします。

## 正像末和讃(八)

無明煩惱しげくして  
塵数のごとく遍満す  
愛憎違順することは  
高峯岳山にことならず

無明煩惱しげくして  
塵数のごとく遍満す  
愛憎違順することは  
高峯岳山にことならず

無明煩惱しげくして  
塵数のごとく遍満す  
愛憎違順することは  
高峯岳山にことならず

無明煩惱しげくして  
塵数のごとく遍満す  
愛憎違順することは  
高峯岳山にことならず

(真実に暗く、私を煩わせ悩ます迷いの心である無明煩惱が多くあり、塵の数のように満ち満ちている。  
自分の心になうものは愛し、たがうものは憎む。そのような心が、高い峯や山のように心の中に居座っている。)

## 覺勝寺行事予定

◎春季彼岸会・永代経法要  
三月二十日(土・祝)

◎班別清掃  
四月十一日(日)九時から

◎定例法座  
三月・四班(町内会五・六組)  
四月十一日(日)十四時から

滋賀教区・犬上組  
行事予定

◎犬上組門徒総代会  
三月十八日(木)蓮光寺  
十三時三十分から



浄土真宗 本願寺派  
圓鏡山 覺勝寺  
彦根市開出今町 258

田中康勝住職代務 連絡先  
本光寺 彦根市八坂町 1318  
TEL&FAX : 28-0572

《 総代連絡先 》  
北川善雄 25-0660  
尾本 博 28-1436 西崎文雄 28-8104



# 恩 徳 讃

如来大悲の恩徳は 身を粉にしても 報ずべし

師主知識の恩徳も 骨をくだきても 謝すべし

(口語訳) 私たちをお救い下さる阿弥陀仏の大なる慈悲の恩徳と、  
教え導いて下さる釈尊や祖師がたの恩徳に、身を粉にしてでも骨を砕いてでも  
深く感謝して報いていかなければならない。

親鸞聖人は元仁元年(1224年)52歳の時、主著の「教行信証」全6巻の草稿を完成

され、76歳の時「浄土和讃」「高僧和讃」、86歳の時「正像末和讃」(この三つの和讃を三帖和讃  
といいます。)を心血を注いで制作されました。

この三帖和讃は500首以上あり、「恩徳讃」は「正像末和讃」のなかにあります。

「恩徳讃」の報ずべし、謝すべしという言葉には、信心獲得すれば自ずと報恩感謝の心

が起こるといふ自らの体験を通して、身を粉にしても仏恩に報じ、骨を砕いてでも祖師が  
たに感謝申し上げたいという、親鸞聖人ご自身の思いがあらわれているといえるでしょう。  
そしてこのような思いとともに、他の人々にも 如来の恩徳に報じ、祖師がたに感謝して  
いかなければならない と浄土真宗の教えに生きていくことを勧めておられるのです。

また、自らの力で悟りを得ようとする自力聖道門の行や、念仏を往生のための善根とす  
る自力の念仏行においては、さまざまな恩に報いるための実践が求められますが、忘恩懈怠

の私たち凡夫に対しては、阿弥陀如来は身を粉にして恩に報じることを強制されるものでは  
ありません。どんなに恩を説かれても、恩をすぐ忘れて怠けてしまうような私であることを  
百も承知のうえで、常に導き護っておられるのです。親やいろいろな人の愛情と支えによ

って子供が成長していくように、阿弥陀如来の智慧と慈悲によって照護された信心獲得の人は、  
常に慚愧と報恩の思いの中で新たな生活を営むことができるでしょう。さまざまな苦悩  
と出会いのなかで、この阿弥陀如来の広大な本願海(大慈悲の世界)に心を向ける時、  
必ずや身を粉にしても 骨をくだきても、

すなわち、精一杯阿弥陀如来のみこころに報じ、祖師がたに感謝して生きることができる、  
と親鸞聖人はいわれているのです